

# 令和2年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園  
高田幼稚園

当園ではこの度、令和2年度の幼稚園評価として教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、現状を見つめ直す良い機会となりました。また、それぞれの評価結果について皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価結果を深く受け止め、更なる「教育活動の充実・教育環境の整備・教職員の資質向上」に努めてまいります。

## I. 教育目標

当園は、真宗高田派の仏教幼稚園として宗祖 親鸞聖人の御教えを受け継ぎ、「佛の慈悲と智慧の光に照らされて“ほとけの子”として育ち合う」ことを建学の精神とし、命の尊さに気づき、思いやりと感謝の気持ちを持てる子として成長できるよう、【はっきりと挨拶ができる子・自分の気持ちを相手に伝えられる子・ゆたかな情操をもった子・だれとでも仲良く遊べる子・感謝の気持ちを忘れない子・たくましい体力をもった子】を保育目標として掲げ、園児一人ひとりと丁寧に向き合いながら日々の保育に取り組んでいます。

## II. 今年度の重点目標

- ア 自信をもって勧められる園づくりを目指して
- イ 安全管理体制の持続と強化について

## III. 評価項目と取組み状況

自己評価項目		取組み状況
ア	1 自園の建学の精神・保育目標の理解と実践に努め、また幼稚園教育要領等を通して幼児教育をよく学び、園児の手本となるよう各自が保育者としての資質向上に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 高田派の仏教園として、いつもほとけさまに見守られていることを子どもたちに伝え、ほとけさまを身近に感じ手を合わせ、「ありがとう」「ごめんなさい」の心が育まれる保育を実践している。また、園児に対し分け隔てなく笑顔で接するよう心がけている</li> <li>◎ 自園の建学の精神を仏教行事などを通して理解し、保育者自身が日々の生活の中で思いやりや感謝の気持ちを言動や行動で示し、園児の手本となるよう努めている。また保育目標を保育室に掲げ、教育要領とともに保育を行う際の指針としている</li> <li>◎ 日々園児の姿を通して自らを省み、課題を明確にし、改善につなげることで資質向上できるようにとの気持ちで業務に就いている</li> <li>◎ 建学の精神・保育目標・教育要領等を理解し実践することを心がけているものの、日々の業務をこなすことで精一杯になり、なかなか実現に至っていない</li> <li>◎ 教育要領を理解できていない部分もあるため、今後も引き続き学んでいきたい</li> </ul>
	2 キャリアや肩書きにとらわれず、それぞれの立場で保育や行事内容・日程に対し意見を出すなど、主体的に園の保育・運営両面の向上を図り、子どもたちの園生活がより充実するよう努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 今年度はコロナ禍で行事の変更・中止が相次ぎ、保育内容の見直しなど急な対応が必要になることも多かったが、幼児期に経験することの重要性を見通した上で代替りの保育を提案したり、皆で意見を出し合い、大切なところを残しながら余分な部分を削る努力をすることができた。結果、核となる部分が際立ち、園生活の充実につながった</li> <li>◎ 自身の経験年数が増したことで保育や行事内容に対し見通しが持てるようになり、意見を出せるようになってきた</li> <li>◎ 子どもたちの園生活がより充実するよう、その年度の園児に応じた保育内容に変更することを提案し実践につなげるなど、主体的に向上を図ることができている。また、職員間でチームワークを取りながら子どもたちが楽しんで過ごせるよう努めることができた</li> <li>◎ 職員間で意見交換をすることはあるが、職員会議等で積極的に発言することはできていない</li> <li>◎ 学年間では自分の考えを話すことができているが、園全体でとなると勤続年数が浅いため遠慮して意見を出せていない</li> </ul>

# 令和2年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園  
高田幼稚園

自己評価項目		取組み状況
ア	3 保護者に園の方針や保育の内容、園児の姿を分かりやすく伝え、理解・共感を得られるよう努めているか。また、同様に外部への広報の充実を図っているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 登園時に保護者と話せる機会があれば子どもの様子などを聞き、降園時には園での姿や職員がどのように関わったのかを伝え、安心感を得られるよう努めている</li> <li>◎ 今年度はコロナ禍のため来園規制や行事・参観の中止があり、保護者とコミュニケーションを深めることに苦労した。登降園の際に少しでも話せるように努めているが、例年に比べると園・保護者間の連携が十分ではなく、保護者も不安だったと思う</li> <li>◎ ホームページでの写真公開やおたより、また動画配信を通じて、園児の姿を保護者や外部に見える形で伝えることができた。特に動画配信は初めての試みであったが、保護者にも好評であったので今後も一層充実させていきたい</li> <li>◎ 例年園児が参加していた地域のイベントやお祭り・慰問等が全て中止となったが、高田本山での「ののさまをえがこう展」に作品を出展したり、参詣の際に地域の方と積極的に挨拶を交わすなどの交流を行うことができた</li> <li>◎ コロナ禍ではあるが、可能な限り園庭開放（子育て支援）を行い、地域の子育て世帯と交流することができた</li> </ul>
	4 いつでも気兼ねなく休暇の取得ができ、皆で助け合えるような職場環境づくりに努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 職員数の充実を図り、休暇を取得しやすい人的環境を整えている</li> <li>◎ 休む際は自分の代行をする職員の負担にならない保育内容にするなど工夫し、突然の病欠に対しても臨機応変に対応できるよう柔軟な姿勢で保育に臨むことができた</li> <li>◎ 普段から「お互いさま」の精神で助け合える雰囲気づくりに努めているため、以前よりも休暇を取りやすくなった</li> <li>◎ 休暇を使って自らをリフレッシュし、保育の質向上につなげることができている</li> <li>◎ 休暇の取得はしやすくなったが、行事や他職員との兼ね合いもあり希望日に休めないこともある</li> <li>◎ 翌日以降の保育の準備を勤務時間内にこなせず持ち帰ることも多い。時期によっては、休暇時も自宅で仕事をしないと十分に準備できないという現状がある</li> </ul>
イ	1 コロナウイルス感染症や、園児の嘔吐・下痢などについて、適正な対応・処理の方法を園全体で共有した上で実践できているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ コロナウイルス感染については最新の行政よりの情報を園全体で共有している。またその情報は自園の状況に合わせた形に適用し、保護者からも理解と協力を得た上で、園一丸となって感染症に対し取り組むことができている</li> <li>◎ 嘔吐・下痢等の処置については、行政や医療関係等の情報をもとにマニュアル化し、園全体で共有・実践できている</li> <li>◎ 嘔吐時には、他の園児を別の部屋へ移動させるなど人手のいることも多いが、別の職員の応援を頼めるなど職員間の連携もできている</li> <li>◎ 今年度は胃腸かぜの流行がなく実際の経験が不足しているため、今後迅速な対応ができるか不安である</li> </ul>
	2 防災・防犯について、どのような取り組みを行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 防災訓練を月1回程度いろいろな場合を設定して実施している。またその都度各職員が反省をし共有することによって、次回の訓練の課題としている</li> <li>◎ 訓練の前に各クラスで紙芝居や絵本等を読み聞かせ、子どもたちが災害に対しイメージを持てるようしている</li> <li>◎ 身の守り方や避難の際の注意など、子どもにも理解しやすい言葉を用いて伝えている</li> <li>◎ 防犯については年に1回警察より人を派遣してもらい、訓練・指導を受けている</li> <li>◎ 保育室を空にする際には、部外者が侵入しないよう外側に面した窓の施錠がされているか確認している</li> <li>◎ 送迎時、保護者以外へ受け渡すことがないように注意し、また道路や駐車場など危険な場所でのルールについては、保護者に対し連絡メール等を使い定期的に注意喚起を行っている</li> <li>◎ 防犯に関してはまだまだ理解不足のところがあり、恐怖心から不審者への対応を行動に移せないなど課題が多い</li> </ul>

## IV. 総合評価

A：出来ている

B：おおむね出来ている

C：一部出来ていない

D：出来ていない

B	各職員が学校評価の主旨をよく理解した上で、主体的かつ積極的に取り組むことができた。また、個々の取り組みのみに終わるのではなく、その内容を職員間で共有することによりチームとしての取り組みにまで広げることができた。その結果、各項目についておおむね達成できたと評価している。達成できなかった点については分析し、問題点を掘り起こし、引き続き今後の課題として取り組み達成を目指す。
---	---

# 令和2年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園  
高田幼稚園

## V. 今後取り組むべき課題

ア	1	自信をもって勧められる園づくりを目指して	◎ 建学の精神・保育目標・教育要領を保育に生かすためには、個々で行うには従来の意識やイメージにとらわれてしまうので、園全体で柔軟な発想をもって取り組む必要がある。仏教や教育要領のエッセンスを保育の中で生かしていくために、職員全体での話し合いや研修の場を定期的に設けていきたい
	2		◎ 意見を出しやすい雰囲気を作っているつもりでも、勤続年数等によって必ずしもそうではないという現状がある。この現状を見直し、誰のどのような意見でも大切な意見として検討するという姿勢で「意見や提案が言える」職場環境づくりを行いたい。その土台があって、保育・運営に対しすべての職員が主体的に参加できるので、皆でしっかり共有し取り組んでいきたい
	3		◎ コロナ禍でもできる限り保護者の声に耳を傾け信頼関係を深め、親子ともに安心して通える幼稚園であり続けたい ◎ 動画配信は今年度初めての試みだったが保護者に喜んでもらったので、園児の姿を保護者に伝える重要ツールとして今後も積極的に活用していきたい ◎ 通常業務が優先され園の広報は後回しになっていたが、少子化の中幼稚園であり続けるために、ホームページや動画などを効果的に使い、自園の魅力や幼稚園であることへのこだわりを広く伝え、園児獲得につなげたい
	4		◎ 休暇の日は仕事をせずに個人の時間を過ごせるよう、持ち帰りの仕事を0にすることを目標に、業務の量が過多になっていないか見直しを行いたい ◎ 休暇の際の代行業務が特定の職員に偏っていないかを確認し、改善を図りたい ◎ 担当が単独でクラスの責任を負うのではなく、園の子どもは職員皆で育てるという意識を持ち、特定の職員にのみ負担がかかるのではなく「みんなで助け合う」雰囲気の中で業務にあたるよう改善していきたい
イ	1	安全管理体制の持続と強化について	◎ コロナ禍において、教育と心身の安全を両立させる方法を慎重に考えて保育を行っていききたい ◎ 実際にコロナウイルス感染者が出た時の対応の仕方など、マニュアル作成し園全体で共有したい ◎ 嘔吐物等の処理方法の再確認や新しい情報を共有するため、年に1回程度は研修を実施したい ◎ AED訓練を受けたことのない職員もいるので、消防署の指導の下の研修を行いたい
	2		◎ 災害・犯罪にはいろいろな状況が考えられるので、その都度臨機応変に対応できるようにしていきたい ◎ 防犯についてはまだまだ身についていないことが多いので、研修と訓練を組み合わせたいという時に行動できるよう体制を整えていきたい

## VI. 学校関係者の評価

- ◎ コロナ禍ではあるが、就学後のことも見通した上での「幼小のつながり」を大切にしてほしい。例えば、今後「タブレットを使った小学校教育」が始まるが、幼児教育の中にどのように取り入れていくことができるのか。幼稚園の段階でどのような準備ができ、どのような経験を積むことができるのか。職員間で話し合い、ぜひチャレンジして欲しい。
- ◎ 防犯の観点から、園児の送迎時、保護者であることを示すネームプレートの着用を義務付けてはどうか。検討してほしい。
- ◎ コロナ禍で先生と話す機会が激減し、我が子の園での様子が分からず不安であった。今後に向けて、コミュニケーションの方法を充実させてほしい。
- ◎ 園内研修や、共同作業で作り物をするなどの機会を定期的に作り、職員間の情報共有やコミュニケーションを大切にほしい。

## VII. 財務状況

公認会計士監査により、適正であると認められている